

## 進捗状況の概要（1ページ以内）

本事業の到達目標は、ディプロマ・ポリシー実現に向けたカリキュラムの体系化及びそれらの質保証であり、平成29年度は、特にCIST質保証マップ、ディプロマ・サプリメント等の具体的な検討を目標の柱とした。

学内の実施体制については、毎月開催される学事連絡会議において本事業の内容、具体的な目標などを教員間で共有すると同時に、全教員が参画する領域WGも実施し（参加率は全教員の100%）、CIST質保証マップについて検討を行った。その検討結果については企画運営会議（教育改革推進委員会）に適宜報告され、平成28年度同様、学長・学部長主導のもとに全学で取り組んでいる。

平成29年度に実施した中心となる取組は、CIST質保証マップの策定に伴う具体的な検討及びディプロマ・サプリメントの基本フレームワークの検討である。CIST質保証マップは、学生が身につけるべき力という観点で項目を整理し、各項目で知識・技能・コンピテンシーを段階的に修得するためのルーブリック指標を持たせたマップであるが、その妥当性については産業界と連携した社会連携WG、高等学校と連携した高大連携WG、大学間連携共同教育連携事業の一環で連携している他大学との大学連携WG、外部評価委員会にて評価され、その結果を踏まえた改善がなされている。また、現状科目のカリキュラムマップ及び当事業にて策定したCIST質保証マップを基に平成31年度から順次開講を目指した共通教育科目及び専門教育科目の教育カリキュラム改革案も策定することができた。ディプロマ・サプリメント検討の状況としては、平成28年度に社会が要請するコンピテンシーを基に改訂したディプロマ・ポリシーをベースとしたディプロマ・サプリメントの設計に着手した。はじめに、ディプロマ・サプリメントの位置づけや効能について、まず学内社会連携WGにおいて議論を行い、AP採択校や社会連携WGの企業担当者との間で意見交換を実施した。その結果、学修成果の履歴が可視化できれば、学生・教職員・企業それぞれの立場から利用価値があるとの結論に達した。次に、ディプロマ・サプリメントの基本フレームワークの検討を行った。CIST質保証マップに記述された各コンピテンシーに準拠した「専門力」と「人間力」に関する項目に対して数値化を行い、学修成果が可視化できるしくみにする方向性で決定した。また、数値化できない学修・行動履歴については、別途一覧性のあるフォーマットで記述できるようにすることとした。今後は、この基本フレームワークを基に、対象学生を絞った上で試験的な運用を開始する予定である。

取組の成果として、CIST質保証マップにて専門領域ごとにレベルを設定することにより社会のニーズに応じた人材の育成に資する授業改善に繋げることが可能となる。また、ディプロマ・サプリメントの基本フレームワークは「在学中に身についた能力」、「社会に出て必要なスキルや知識」の妥当性について社会連携WGやOB等にて検証することにより、精度の向上を図っている。

補助期間終了後の継続発展に向けた取組として、本事業は、本学の中期目標に沿った内容であり、大学として継続展開を図っていく。本事業での中核となる「CIST質保証マップ」は、全教員参加によるFDの成果であり、平成32年度以降（事業終了後）もFD委員会を中心に専任教員の教育活動の一環で継続して内容の改訂を行っていく予定である。

学内外への波及効果として、本事業で構築予定の「CIST質保証マップ」は、理工系の大学で汎用的な活用（参照）ができる可能性が高い。特に、「CIST質保証マップ」をデータベース化して、eラーニング・eポートフォリオ・授業ポータルと連動した情報システムとすることで、公開性・再利用性がさらに高まる。さらに、「CIST質保証マップ」は、理工系のみならず、情報系・医療系などの出口が明確な領域を中心に拡げた場合にも、教育システム自体は本事業の成果を活用して再利用可能であると考えられる。